

# 知っていそいで 知らない沿岸の話

～身近な海で起きていること～

## 講演題目

深海谷を通じた沿岸—外洋物質輸送 ～ 富山深海長谷を例に～

千手 智晴 (九州大学応用力学研究所 准教授)

近年の海の状況と沿岸における観測

篠崎 覚 (福岡管区気象台 気候変動・海洋情報調整官)

二枚貝の数と環境

栗原 健夫 (水産研究・教育機構 水産技術研究所 主幹研究員)

## 司会進行

岸 真弓 (気象予報士・防災士)

参加無料(事前申込)

## 第10回 海の科学講座 in 九州

海の科学講座

開催日時：2024年8月4日(日) 13:00～16:00

開催方法：オンライン開催

定員：300名

申込方法：2次元バーコードまたは下記URLから申し込んでください。

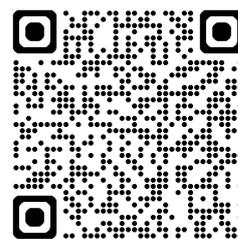
<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/knowledge/umi-kouza.html>

申込締切：8月1日(木)

共催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、水産研究・教育機構水産資源研究所

後援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、地球ウォッチャーズ—気象友の会—

問合せ：092-725-3614 (福岡管区気象台 地域防災推進課 平日9時～17時)



## 海の科学講座への招待

「海の科学講座in九州」は、日ごろ触れる機会の少ない海の様子を広く一般の方に伝え、興味・関心を持って頂くことを目的に、平成26年から年1回、夏に開催し今年で10回目を迎えます。

今回の講座では、近年の海の状態や生き物の変化に注目して、物理・気候・生物の各分野の専門の先生方に解説して頂きます。講座に参加することにより、少しでも海の様子に興味・関心を持って頂くと幸いです。

## 講座内容・紹介

### 『深海谷を通しての沿岸—外洋物質輸送～富山深海長谷を例に～』

講師：千手 智晴（九州大学応用力学研究所 准教授）

日本には富山湾や駿河湾、鹿児島湾など、深い谷が岸近くにまで入り込んだ海域がたくさんあります。このような深海谷は陸域と深海をダイレクトにつなぐことから、沿岸と外洋の間の物質輸送に大きな役割を果たしていると考えられます。近年まで狭くて急な谷の中の温度や流れを測ることは困難でしたが、観測機器の発達にともない、少しずつその実態が明らかになりつつあります。今回の講演では富山湾を例に、深海谷内部の様子についての最新の研究成果を紹介します。



### 『近年の海の状態と沿岸における観測』

講師：篠崎 寛（福岡管区気象台 気候変動・海洋情報調整官）

地球温暖化の影響は、気温の上昇だけでなく海洋にも影響しています。近年の海面水温や海面水位の状況、沿岸における波や潮位の観測についてお話しします。また、令和3年から線状降水帯予測のための観測や予報の改善をおこなっています。観測船からの水蒸気の観測など、気象庁の取組を紹介いたします。



### 『二枚貝の数と環境』

講師：栗原 健夫（水産研究・教育機構 水産技術研究所 主幹研究員）

「貝のように口を閉ざす」という言葉があるように、二枚貝は無口な存在だと思われがちです。しかし、二枚貝はその数量の変化を通して、海の環境から受ける影響を、ぼつりぼつりと語ってくれるのです。演者が外来種のムラサキガイや食用種のタイラギ・シャコガイなどの二枚貝の数量を研究し、空耳まじり聞き取った、地球温暖化や共生環境の影響についてお話しします。



## 司会進行



岸 真弓（気象予報士・防災士）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士、防災士。日本気象協会から独立後、テレビ、ラジオの気象キャスターを務め、地球温暖化や防災についてなど講演多数。MCや司会など仕事の幅を広げています。全く泳げないものの海への興味は人一倍あります。



問い合わせ：092-725-3614（福岡管区気象台 地域防災推進課 平日9時～17時）

共 催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、水産研究・教育機構水産資源研究所

後 援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、地球ウォッチャーズ - 気象友の会 -

ホームページ：福岡管区気象台 | イベント <https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/knowledge/umi-kouza.html>

九州大学応用力学研究所 | イベント <https://www.riam.kyushu-u.ac.jp/research/research-events.html>